

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要【本通小】

国語

本校の概要

【内容】

- ☐「言語の特徴や使い方に関する事項」
・全国平均を下回っている。
- ☐「情報の扱い方に関する事項」
・全国平均を下回っている。
- ☐「我が国の言語文化に関する事項」
・全国平均を下回っている。
- ☐「話すこと・聞くこと」
・全国平均とほぼ同程度である。
- ☐「書くこと」
・全国平均を上回っている。
- ☐「読むこと」
・全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
- 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。

改善の方向

- 目的を明確にして得た情報と自分の考えを比較しながら、取材を行うことや取材で得た知識や情報を分類したり関係づけたりしながら、自分の考えをまとめていく学習活動の充実。
- 「まず」「次に」「それから」「最後に」といった順序を示す言葉や、日付・時刻を示す言葉などを用いて、物事を順序立てて説明する活動の充実。
- 図表やグラフなどの複数の情報から必要な情報を抜き出し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する活動の充実。

算数

本校の概要

【領域】

- ☐「数と計算」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。
- ☐「図形」
・全国平均を下回っている。
- ☐「測定」
・全国平均とほぼ同程度である。
- ☐「変化と関係」
・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。
- ☐「データの活用」
・全国平均とほぼ同程度である。

今回の調査における課題

- 示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること。
- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。
- 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること。

改善の方向

- 資料から必要な情報(数量)を選び出し、その関係性(加減乗除、割合、平均など)を見つけて数式を導く活動の充実。
- 実際に二等辺三角形等を作る活動など、図形の意味や性質について体験的な活動を通して理解する活動の充実。
- 数直線上で目盛り一つ分がいくらかに着目して読み取りたり表したりする活動の充実。

理科

本校の概要

【領域】

「エネルギー」

◆全国平均を上回っている。

「粒子」

◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「生命」

◆全国平均を下回っている。

「地球」

◆全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

●異なった条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができること。

改善の方向

○理由や根拠を明確にして自分の考えを書き表す活動の充実。

学習状況調査 学校や家庭の「学習」「生活」の様子について

《学習》

【国語】好きと感じていて、授業の内容がよくわかると答えている児童の割合が全国平均より高い。

○目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている児童が多い。

△学習したことが、将来役に立つと感じている児童の割合が低い。

【算数】得意、好きと感じている児童は全国平均より低い、授業の内容がよく分かったと感じている児童の割合は高い。

○どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。

△学習したことが将来役に立つと感じている児童が多い一方で、普段の生活に活用できている児童が全国平均より少ない。

【理科】好きと感じていて、授業の内容がよく分かったと感じている児童が多い。

○自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりしている児童が多い。

○問題に対して答えがどのようなになるか、自分で予想（仮説）を考えている児童が多い。

【学習全般】

・分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することができていると感じている児童の割合が全国平均より高い。

・自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している児童の割合が全国平均より高い。

・学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると感じている児童の割合が全国平均より高い。

《生活》

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えた子の割合が、全国平均や北海道より高い。

○「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた子の割合が、全国平均や北海道より高い。

○「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と答えた子の割合が、全国平均や北海道より高い。

△「自分には、よいところがある」と答えた子の割合が、全国平均より低い。

△「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答えた子の割合が、全国平均や北海道より低い。

本校の調査結果から、全国や北海道の割合と比べて「肯定的な回答が多いもの」と「肯定的な回答が少ないもの」を抽出しました。調査結果から学習に対して肯定的な意見が多く、授業内容の理解に困っている様子はあまり見られません。また、友達が困っていたら進んで助けたり、地域や社会をよくしたりしようという意識が高いことがうかがえます。一方、自己肯定感が低く、自分と違う意見に対して肯定的な回答は少ないという課題もありました。

今後は、学校として、児童が自分に自信をもち、自分と違う意見でも受容できる取組を行っていきます。スモールステップでの目標設定や、自信をもてる声掛けをし、児童が達成感をもてるようにします。また、授業などの場面で児童から出てくる様々な意見を教員が認め、安心して発言できる土台作りを行います。